

## 職業能力評価基準(屋外広告業)におけるレベル区分の考え方

レベル	レベル区分の目安	イメージ
レベル4	●熟達した知識・技能を有し、会社の利益拡大や競争力強化に貢献できる能力水準	<ul style="list-style-type: none"> <li>■統括責任者</li> <li>■工場長</li> <li>■ディレクター</li> <li>■エキスパート</li> <li>■スペシャリスト など</li> </ul>
レベル3	●高度な知識・技能を有し、主体的な判断・工夫を行いながら業務を取りまとめるとともに、部下への業務指導ができる能力水準	<ul style="list-style-type: none"> <li>■職長</li> <li>■リーダー</li> <li>■主任</li> <li>■ベテラン など</li> </ul>
レベル2	●幅広い知識・技能を身につけ、担当業務全体を独力で遂行できる能力水準	<ul style="list-style-type: none"> <li>■上級担当者 (経験レベル)</li> </ul>
レベル1	●基本的な知識・技能を身につけ、定型的な日常業務を遂行できる能力水準	<ul style="list-style-type: none"> <li>■担当者 (基本レベル)</li> </ul>

# 屋外広告業におけるキャリア形成の例

- 入職後、社内の業務全体について概括的な知識を身につけたうえで、まずは特定の職種に軸足を置いて経験を積むのが一般的である。
- その後は、様々な仕事を経験して技能の幅を広げながらキャリアアップするケースが一般的だが、デザインや製作など特定分野に特化し、熟練技能を蓄積しながらキャリアアップするケースもある。
- なお、会社の業態によって社内存在する職種の範囲は異なる(例:「施工・設置」のみに特化した企業など)。また、小規模企業の場合、複数の職種を一人の担当者が兼務するケースが多い。

